

札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会
札幌市中央区大通西 19 丁目
札幌市医師会館内

巻 頭 言

「札幌市勤務医協議会役員入れ替えでの新たなスタート」

会長 鶴間 哲弘

初夏の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より札幌市勤務医協議会に一方ならぬご理解とご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

今年は、西日本では記録的に早い梅雨明けとなりました。6月としては真夏日の日数も多く、札幌でも6日を記録しました。札幌の6月の平均気温は平年よりも3℃以上高かったそうです。7月に入ってもしばらくは厳しい暑さが続く予報です。北海道の夏はあっという間に終わってしまうので、私としては暑い夏は大歓迎です。

ところで、最近、中国人や台湾人の旅行者が減ったと思いませんか？ 知っている人も多いと思いますが、「2025年7月に本当の大災難がやってくる」という予言の影響です。たつき諒氏による『私が見た未来 完全版』は、2021年に飛鳥新社から刊行されたサブカルチャー分野のベストセラー漫画で、夢で見た内容を記録し続け、その体験を基にした漫画ですが、その内容が現実化し予言とし注目を集めています。具体的には、「尾崎豊の死」、「ダイアナ妃の死」、「阪神淡路大震災」、「未知のウイルス（新型コロナウイルス）」、「東日本大震災」などを夢で言い当てたと言われており、中国語版も発売され国内外で話題となっています。今回話題となっているのは、「本当の大災難は2025年7月にやってくる」という夢で、日本とフィリピンの間あたりの海底が破裂し、南海トラフ地震の想定を超える壊滅的な大津波が日本の太平洋側を襲うという内容です。夢を見た日が2021年7月5日であることから、2025年7月5日に大震災が起きるのではないかという噂がSNSやネットで香港、台湾、東南アジアなどで拡散しました。香港のグレーターベイ航空や香港航空が仙台・徳島路線などを減便、2025年夏の旅行シーズンを前

にアジア主要国から日本への旅行者が大幅に減少しているそうです。これをうけて、内閣府は「地震の予知は困難」と公式コメントしています。この話題を聞いた時、1973年に初版が発行され話題を集めミリオンセラーとなった「ノストラダムスの大予言」を思い出しました。当時、「1999年7の月、空から恐怖の大王が来るだろう」という予言が大反響を及ぼしましたが、結局、大災害は起きず予言は「はずれ」となりました。皆さんは、今回の夢予言、どう思いますか？ 私は、7月5日、学会から帰って来る日で飛行機に乗っています……。この文章が配られる頃には結果が出ているはず。「地震の予知は困難」と内閣府や気象庁は名言しており、今回の予言は科学的根拠が全くありませんが、防災意識の再認識ができれば、今回の予言の有難味があるのかもしれませんが、今回の予言がSNSやネットでの拡散によって、飛行機の減便や旅行者の流れをも変えてしまったという影響を鑑みるに、ある意味、SNSやネットの恐ろしさを感じます。「真実は何なのか」、自分自身で適切に判断することが重要なのではないのでしょうか。

札幌市勤務医協議会は、本年度より役員の入れ替えがありました。三橋公美先生（議長）、真尾泰生先生（副議長）、大岩彰先生（監事）、水尾仁志先生（監事）がご退任されました。これまで札幌市勤務医協議会へのご尽力感謝いたします。それに伴い、議長には吉田祐一先生、副議長には占部和之先生、監事には鷺見佳泰先生、松村道哉先生にご就任いただきました。また、新しい幹事として、本間重紀先生（札幌厚生病院外科）、萩原誠也先生（萬田記念病院糖尿病センター）、久保田信彦先生（札幌スポーツクリニック麻酔科）、湯野暁子先生（勤医協中央病院糖尿病内分泌内科）、札幌市医師会理事より本間早苗（北海道脳神経内科病院）が就任されています。現時点での札幌市勤務医協議会の会員数は172名であります。今後とも先生方のご協力のもと、会員間の懇親、情報交換の場として本協議会を盛り上げていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（J R 札幌病院）



「音楽療法」

幹事 中川 麗

ひょんなことから、音大に通うようになりました。

全てが新しいことで、ピアチェーレ！イタリア語で話しかけられて、教科書のどこ開いてるんだ？まーとにかく参加することに意義がある？果敢に毎回鎮座はしております笑

菓をも継る思いで、親しみのある単語『療法』とついた授業をとってみました。

音楽療法。

ひたすら、セラピーの場面が流れます。映像を見ながら、自分の体験も振り返りながら、音楽療法と自分とを近づけてゆくような授業です。最後に感想文を書くだけ。おーこれなら、私にも参加できそう。ぼーっと映像を見つめて過ごす1時間。これぞ、THE 学生ちゃん。

思春期のこだわりと自分でも言語化しきれない思いに混乱している女の子がチェロを抱えて鎮座しています。言葉として自分の意見を言うまでには整理されておらず、誰かに代弁されるのも決めつけられるようで受け入れられず、そんな動悸感を覚える中、鼓動に合わせるように、気分に合わせてるように選曲がされてゆきます。

女の子の母親は、その子が真似できるような単純な旋律をピアノで弾き、女の子はそれを真似てチェロでひく、最初は、母親のピアノに必死についてゆき、同じように合わせて弾けるようになる。繰り返すうちになめらかさが出てきて、自信もつくようになるものの、軍隊のように規律に縛られたように窮屈も感じるようになる。その基本的な旋律の繰り返しをひく中、母親のピアノが突如ジャズっぽく女の子に揺さぶりをかけてくる。同じ基本的な旋律のはずなのに、ちょっとタイミングがずれて、不協和音のように感じる和音になった後に、安心する和音に戻って、ホッとする。そんな繰り返しをしている間に、少しあるずれや不協和音の予感、不安ではなく、期待となり、オシャレになって開放感を感じるようになる。

そして、思い切って、女の子から母親に揺さぶり

もかけ始める。そのずれたタイミングを拾いあげるように母親も呼応する。掛け合いをできるようになってきたところで、突然、母親のピアノが、宗教曲のように厳かに澄んで響くようになる。女の子の心に語りかけてくるように聞こえるようになる。

ピアノなのにどこか教会に響くチェンバロのような、透明な感じ。同じ単旋律なはずなのに・・・何か、澄んだ湖の中を泳いでいるようなそんな感覚に襲われて、突然、女の子の目から涙が溢れてきました。

動画を見ながら、そんな、反抗期だったあの日、あの瞬間が瞼の裏に鮮やかに蘇りました。

その後から、どちらともなく、ピアノとチェロを合わせるようになり、そこに母の歌声が加わるようになり、いつしか、妹たちも共に演奏するようになり・・・妹たちが歌う幼稚園の歌が私たちの大事なセッションの中心にありました。ただの園歌なのに、それは、とても自由で、世界を広げてくれた、特別な時間の中心でした。

半世紀近い人生を送りながら、幼稚園の園歌をここまではっきり覚えている人はあまりいないかもしれません。でも、それは、あの日々の主旋律であり、共通言語であり、言語化できない私たち姉妹の鼓動が伝わり、理解し合い、母の懷の中で育まれた証とも言えるかもしれません。

そして、母にとってもまた、子育てに悩み、苦しみ、でも、愛しくてたまらない私たちに伝えたくても言葉では伝え尽くせない思いを発散させ、確かにそこにあるけれど、引き出せないものを見だし、触れて、確信し、自信を取り戻した時間だったのかもしれません。

あの頃の母の年を迎え、音楽を学ぶ中、悩んで泣いていたあの頃の母と同志のように肩を組み、歌うような錯覚を覚えることがあります。

母のように子供に恵まれることはありませんでしたが、研修教育に携わらせてもらうことが多い医者人生に恵まれました。4月になるとまた同じ説明をして、同じギャグを言い、画一的になってきた頃には、あら？と固定概念を揺さぶる症例に出会う夏が来て、憂いを纏う秋になり、苦しい冬を超えて、また、春が来る。その繰り返しの中、たくさんの素晴らしい医師たちが成長し、活躍の場を広げ、飛び立ってゆく・・・その煌めく時間を共有させてもらった奇跡に心から感謝できるようになりました。

療法は、教育は、提供される側だけではなく、また、提供する側にもまたたくさんのものを残し、育て、癒してくれるものだということを教えてくれた母の背中がまだしゃんとしているうちに、アンサンブルをたくさん歌って、思いを受け取りたいなと強く思うようになりました。

そして、育ての親とも言える、札幌の諸先輩方の大きすぎる背中が背負うものを少しずつ肩代わりしつつ、頂いたものが、次世代の医師たちに受け継がれてゆく過程が少しでも穏やかで、慈しみ深いものでありますように。

そんな一助となるべく、会員福祉部の仕事も頑張っていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

(J R 札幌病院)

記念講演会抄録

「人生出会いで決まる」

タカハシグループ

会長 高橋 康弘 先生

私は1953年に北海道女満別町（現大空町）で生まれた。実家は農業だった。

祖母が非常に商魂たくましい人で、農地を売って映画劇場を買い取った。

小学校時代までが映画のピークだったが、東京オリンピックでテレビが普及して父が開いた映画館は斜陽の道をたどった。

高校卒業前、車が好きだったので神奈川県にある日産自動車の平塚工場に願書を出していた。そのとき大腸がんを手術した父の体調が悪くなり、叔父たちから「家に帰って家業を手伝ったらどうか」と言われた。

父は「借金だらけの家にわざわざ帰ってくることはない。お前が自分の好きな道にいった方がいい」と言ってくれた。そう言われると、かえって男気が出てきて「いや、戻って跡を継ぐよ」となってエンタメ、映画の世界に入ってしまった。

映画館には封切館、2番館、3番館など上映順のランク付けがある。私の「美幌東映」は3番館で映画会社にはそれ程相手にされない。上映順を早くしてもらうための交渉で札幌に毎月行く中で、東映の多田憲之さん（現東映会長）に出会った。

私より4歳上だが、ほぼ同じ年に私は家業、多田さんは札幌の北海道支社に配属になった。食事によく誘ってくれて、私は本当の兄のように慕った。お互いに「多田ちゃん、康ちゃん」と呼び合えるいい関係を築かせてもらった。

映画の厳しい時代が続く中、88年の「ハスラー2」（ポール・ニューマン主演）というビリヤードの映画がきっかけで、空前のビリヤードブームになる。

そこで多田さんから「ビリヤード場をやってみないか」と提案された。

早速ビリヤード場をやってみると3カ月でイニシャルコスト（初期投資）が取れた。だが半年後には売り上げが激減して、一過性のブームの厳しさを実感した。

次に多田さんから「カラオケブームが来るよ。やったらどうか」とアドバイスがあった。ちょっと半信半疑だったが、やってみようとなって、89年からカラオケビジネスを始めた。当時は700~800曲があれば大体営業できた時代で、今は通信になって30万曲以上がカラオケに入っている。

設備投資は大きかったが、毎月毎月新曲が入ってくるので、ビリヤードとは違ってお客さんには飽きがこない。これはいけるのじゃないかと思った。店で学校帰りの高校生がはちきれんばかりの勢いで歌っているのを見た。カラオケがストレス発散の場になっていることがよく分かった。

これなら地域貢献で多店舗にできると思って、弟と一緒に店舗拡張をどんどん進めた。94年にオホーツク圏外の初店舗、旭川の永山に出店した。96年に札幌に進出した。北24条にあるこの店は「歌屋」の称号を初めて使った非常に感慨深い店である。

店舗展開の中でカラオケ店はやがて飽和状態になると思った。独自色を出さないと生き残れない。そんな思いが強かった。そこで接客マニュアルのビデオを作った。映像による店員のこの「人財育成」は効果てきめんだったと思う。そして今も接客の勉強会も続けている。現在全道で65店に増えた。これはそういう下地があったからできたと思う。

だがマニュアルには弊害もある。あるとき私がそば店で注文したが、なかなか出てこない。「急いでいる」と何回かせついたら、やっと出てきた。そのとき店員が「ごゆっくりどうぞ」と一言。これはいけない。まさしくマニュアルの弊害だと思った。

マニュアルを何とか超越しようと考えていたとき、清里町にある照玄寺の美馬一乗住職との出会い

があった。この方には本当にいろいろな教えを乞うた。そのとき住職から聞いた「苦悩をいただく」という言葉がすごく印象に残っている。

仕事を頼んだ部下が失敗したとき「お前は会社をつぶす気か」と怒る経営者がいる。それは違う。部下に仕事をお願いしたのだから、もう丸投げしたのと同じだ。そこで文句を言うのはおかしい。人は本来苦悩をいただいているのだから、そういう境地に立って社員に接したらどうか。こんなことを住職はおっしゃった。

ただ大切なことはやはり事業というモノは継続させなくてはならない。店は絶対クローズさせるわけにはいかない。こんなことを思っていた2007年、懇意だった網走信用金庫の前理事長から民事再生法の適用を申請した網走ビール再生のスポンサーにと頼まれた。畑違いのM&A（合併・買収）話であり当然悩んだ。だがビール工場の再生ができたなら経営者としてまた違うステージに上げられる、と思って受けた。

ビールの販売は冬が厳しい。12月ごろ担当者が「また資金をお願いします」と言ってきた。私は工場も含めてビール関係の全員を集めて「お金がなくなったら親会社に頼むという魂胆が気に入らない。急場をしのぐ案は何かないのか」と気合いを入れた。

そのとき工場長が青い流水ビールを提案した。私はこれはいけるとピンときた。工場長は東京農業大学の1期生で教授ともよく相談して、鮮やかなブルーの発泡酒ができた。クラフトビール（地ビール）の業界では年間10万本も売れると大ヒット商品だが、これが30万本も出たと記憶している。

09年に道の駅の営業をお願いされた。何でもかんでもやる、ということではなかったが、誰もやる人がいなければやる、と思っていたが結局やる羽目になった。この道の駅「流水街道網走」は今、冬に訪れたい道の駅ランキングで3年連続1位である。

そして12年に流水観光船「おーろら号」の道東観光開発、網走バス、網走ハイヤーの経営をお願いされた。3社を所有する名古屋鉄道がファンドに売却するという話があったという。網走市からは「ぜひ高橋さんに引き受けてほしい」と懇願され、一肌脱ぐ気持ちになった。

だが事業譲渡のための資金繰りが大変だった。当初は地銀、メガバンク、信用金庫が前向きに検討すると言っていたが、地銀が譲渡契約の1カ月前に降りた。次にメガバンクが契約の3日前にいきなり話を白紙に戻した。私は青天のへきれきで頭が真っ白

になった。

契約日まであと1日のとき、ある人から北見信用金庫の太布康洋理事長に相談したらどうか、という話があった。北見に駆け付けて太布さんをお願いに行った。お会いすると、この方はなんと旭川南高校の私の2年先輩、野球部のキャプテンだった。これこそ本当の出会いだと思う。

太布さんは私の同級生の名前などを覚えていた。そして「おたくはオホーツク圏にとって大事な企業の1社だから、北見信金は応援するよ」と言っていた。これで資金ができて事業譲渡契約がまとまった。

この後に組合との交渉は本当に大変だったが、何か思い悩むときに私は網走のニツ岩に行く。そこが自分のパワースポットだ。砂浜で近くの山、海を眺めると何となく癒やされる。そこに閉館になったホテルがあったので、これを再生させて介護施設に改造した。名前を「花・水・木」と家内が命名した。ハナミズキの花言葉はすごくいい。「私の思いを受け止めてください」

事業を永續するためには何が必要か。自分が身を引くことがまず一番かと思うが、やはりそこには葛藤もある。60歳を期に息子、おいっ子たちに社長を譲った後、久しぶりに会議に出ると、つい「お前たちに創業者の思いは分からない」などと言ってしまって後悔している。

私がまだ元気なうちに若い社長たちがどんどん失敗して、私がそこにアドバイスをする。そこで若い人が学ぶ。そんなことが事業継承では大切だと思っている。

今までの出会いの中で一番印象に残った人が誰ですか、と聞かれたことがある。それは今村監督だったと思う。監督とは3日間ロケで一緒だった。私の父と同年だったので余計に親近感を持った。監督と別れるときに色紙に何か言葉をと頼んだ。監督は「さよならだけが人生さ」と言った。それは井伏鱒二の言葉だったらしい。

これを私流に解釈すると、別れるときに「じゃあな」ということもあるが、「さよなら」といえる関係はすごくいいと思った。今も監督のその一言が記憶に残っている。

最後になる。オーストリアの宗教哲学者、マルティン・ブーバーは「人生は出会いで決まる」と言った。私は今日皆さんと出会えたことを感謝している。

第37回札幌市勤務医協議会
定時総会について

令和6年度札幌市勤務医協議会事業報告

月日	事業内容
6年	・第1回役員会
4.9	第1号 第36回札幌市勤務医協議会定時総会関連事項について 第2号 令和6年度産業医研修会について 第3号 その他：勤務医協議会ニュース（No.61）発行について
5.13	・第36回定時総会 1. 報告事項 第1号 令和5年度事業報告 第2号 令和5年度会計収支決算 第3号 令和5年度監事報告 第4号 その他 2. 協議事項 第1号 令和6年度事業計画案に関する件 第2号 令和6年度会計収支予算案に関する件 第3号 その他 ・記念講演会 テーマ：「スポーツに多いケガとスポーツ医学サポート体制」－ジュニア世代からトップアスリートまで、近年の動向も含めて－ 講師：札幌医科大学 保健医療学部 理学療法第二講座 教授 札幌医科大学附属病院 スポーツ医学センター長 渡邊 耕太 先生
6.27	・『勤務医協議会ニュース No.61』発行
8.4	・第25回ゴルフ大会（札幌市病院協議会合同）※中止
8.23	・産業医研修会（産業医協議会主催） 場所：札幌市医師会館 テーマ：「改訂版両立支援ガイドライン、新意見書様式の利用方法」 講師：産業医科大学産業生態科学研究所 災害産業保健センター 教授 立石清一郎 先生 参加者：105名
9.20	・産業医研修会（産業医協議会主催） 場所：札幌市医師会館 テーマ：「職場の災害リスク低減に向けて」～化学物質の自律的管理を中心に～ 講師：北海道安全衛生研究所 会長兼所長 池田 和博 先生 参加者：128名
10.26	・令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 場所：ホテル日航福岡（福岡市） メインテーマ『勤務医の声を医師会へ、そして国へ』～医師会の組織力が医療を守る～ 参加者：鶴間会長、西川幹事
10.22	・産業医研修会（産業医協議会主催） 場所：札幌市医師会館 テーマ：「産業医の役割 『はて？』と思うところから」 講師：きたあかり法律事務所 弁護士 皆川 洋美 先生 参加者：167名

11.18	・産業医研修会 場所：札幌市医師会館 テーマ：「産業医が知っておきたい睡眠時無呼吸症候群について」 講師：社会医療法人 北海道循環器病院 副院長 柏木 雄介 先生 参加者：128名
11.25	・勤務医委員会・札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同懇談会 場所：札幌市医師会館
7年	・第45回札幌市病院学会
2.1	演題数：76題（20医療機関） 参加者 323名
2.14	・札幌市病院協議会との合同講演会※中止 場所：札幌市医師会館 テーマ：「医療AIで未来の医療を作る」 講師：北海道大学大学院医学研究院画像診断学教室教授 北海道大学病院放射線診断科長 北海道大学病院医療AI研究開発センター長 工藤 與亮 先生 令和7年4月10日現在会員数 166名 （前年度比-12名）

令和6年度札幌市勤務医協議会収支決算報告

【収入】

項目	予算額	収入額	増減比	摘要
会費	534,000	358,335	-175,665	会費(121名)
札幌医交付金	400,000	400,000	0	札幌医交付金
雑収入	1,000	21,303	20,303	祝儀・預金利息
繰越金	2,468,989	2,468,989	0	前年度繰越金
計	3,403,989	3,248,627	-155,362	

【支出】

項目	予算額	支出額	増減比	摘要
会議費	500,000	247,000	-253,000	役員会費用弁償 懇親会経費
事業費	800,000	221,150	-578,850	病院学会経費外
通信費	400,000	131,282	-268,718	ニュース発送外
慶弔費	100,000	20,000	-80,000	香典
事務費	100,000	70,000	-30,000	病院学会事務費
予備費	1,503,989	0	-1,503,989	
計	3,403,989	689,432	-2,714,557	



令和7年度事業計画

No	事業項目	予定回数	担当部	備考
1	総会	1	総務部	
2	講演会	1	総務部	(例年は総会と同日開催)
3	役員会	6回以内	総務部	
4	部長会	適宜	総務部	
5	学術講演会	1	事業部	2～3月頃病院協議会と合同
6	産業医研修会	1 (主催) 2～3 (共催)	事業部	主催:11月頃開催 共催:産業医協議会と調整して開催
7	勤務医委員会・病院協議会との懇談会	1	総務部 事業部	全国勤務医部会開催後予定
8	病院学会共催	1	事業部	令和8年2月7日(土)開催予定
9	札幌市勤務医協議会ニュース発刊	適宜	総務部	随時発刊予定
10	札幌医通信執筆	適宜	総務部 会計部 事業部 厚生部	勤務医協議会活動について(加入促進等)
11	全国医師会勤務医部会連絡協議会	1		11月8日岩手県
12	ゴルフコンペ	1	厚生部	病院協議会と合同

令和7年度札幌市勤務医協議会収支予算

【収 入】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会 費	498,000	534,000	-36,000	会費(166名)
札幌医交付金	400,000	400,000	0	札幌医交付金
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息
繰越金	2,559,195	2,468,989	90,206	前年度繰越金
計	3,458,195	3,403,989	54,206	

【支 出】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会議費	500,000	500,000	0	総会経費外
事業費	800,000	800,000	0	各部事業活動等
通信費	400,000	400,000	0	各種会議等開催案内等
慶弔費	100,000	100,000	0	弔慰見舞
事務費	100,000	100,000	0	事務用消耗品外
予備費	1,558,195	1,503,989	54,206	
計	3,458,195	3,403,989	54,206	

新 執 行 部

- ・ 会 長 鶴間 哲弘 (JR 札幌病院)
- ・ 副会長 小林 尚子 (中橋内科クリニック)
川田 将也 (斗南病院)
- ・ 幹 事 澤田 格 (西岡病院)
中川 麗 (JR 札幌病院)
本間 重紀 (札幌厚生病院)
萩原 誠也 (萬田記念病院)
久保田信彦 (札幌スポーツクリニック)
湯野 暁子 (勤医協中央病院)
西川 秀司 (市立札幌病院)
本間 早苗 (北海道脳神経内科病院)
- ・ 監 事 鷲見 佳泰 (中村記念南病院)
松村 道哉 (手稲溪仁会病院)
- ・ 議 長 吉田 祐一 (東苗穂病院)
- ・ 副議長 占部 和之 (札幌南一条病院)
- ・ 顧 問 今 真人
田中 靖通
松波 己
工藤 靖夫
土田 哲人
成田 吉明

「札幌市勤務医協議会ニュース」の閲覧について

「札幌市勤務医協議会ニュース」を札幌市病院協議会のホームページに掲載しております。
バックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

札幌市病院協議会ホームページ URL

<https://www.sapporo-byoinkyo.jp/>

